5.　鶴見大学附属中学校・高等学校

全日制課程(高校15クラス):普通科

【所在地】 神奈川県横浜市鶴見区鶴見2-2-1

【生徒数】 高校656名

【出身中学別生徒数】
附属中学校
（県内:約95．9%、県外:約4．1%）
高校からの入学
（県内:約99%、県外:約1%）

【進路】
（H30年度　卒業生進路状況）
進学　210名（大学174 短大9
専門学校等28）
就職　　5名

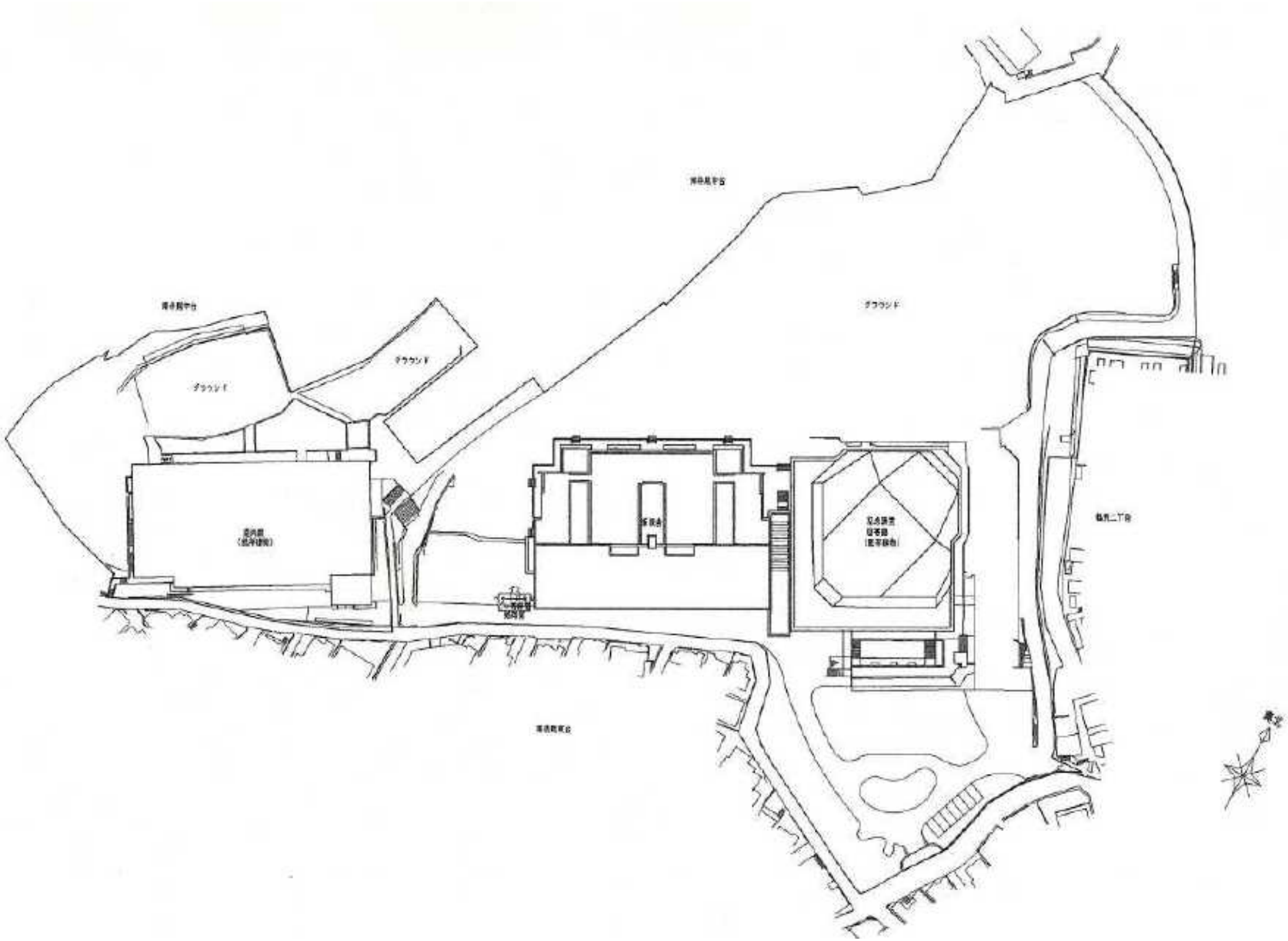
【職員数】

校長	副校長	教頭	主幹教諭	教諭	養護教諭	常勤講師	非常勤講師	実習助手	学校司書	事務長	事務職員	主任	小計
1	1	副校長兼務	3	48	2	7	24	0	2	1	8	42 教諭内	96

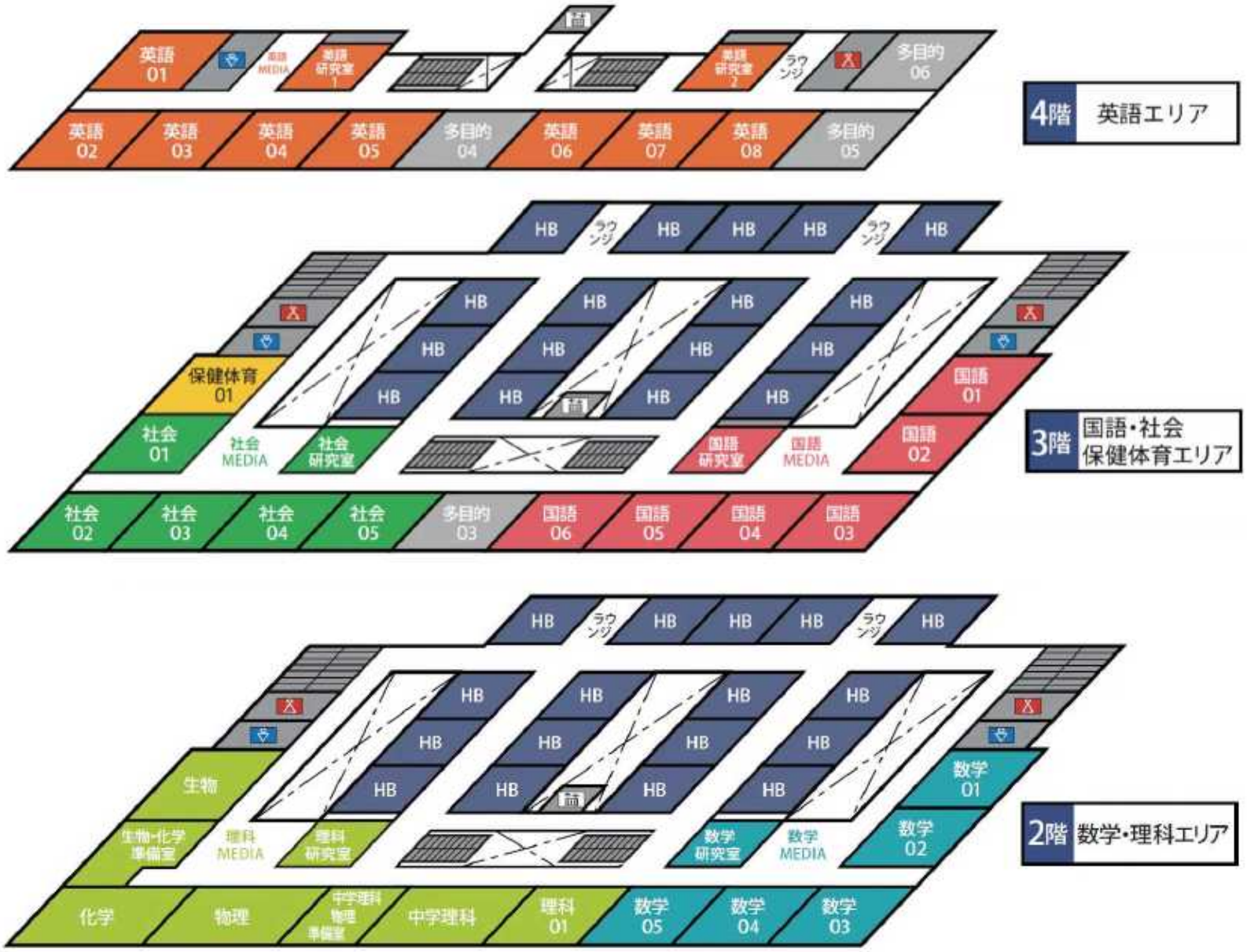
校医	歯科医	薬剤師	警備員	炊事員	小計	合計
1	1	1	委託	0	3	99

【沿革】
大正13年に女学校として開校、複数回の名称変更や系列校の新設・合併を経て平成19年に系列大学である鶴見大学附属女子中学校・高等学校となる。翌平成20年に共学化、平成21年に教科エリア・ホームベース型校舎が竣工。

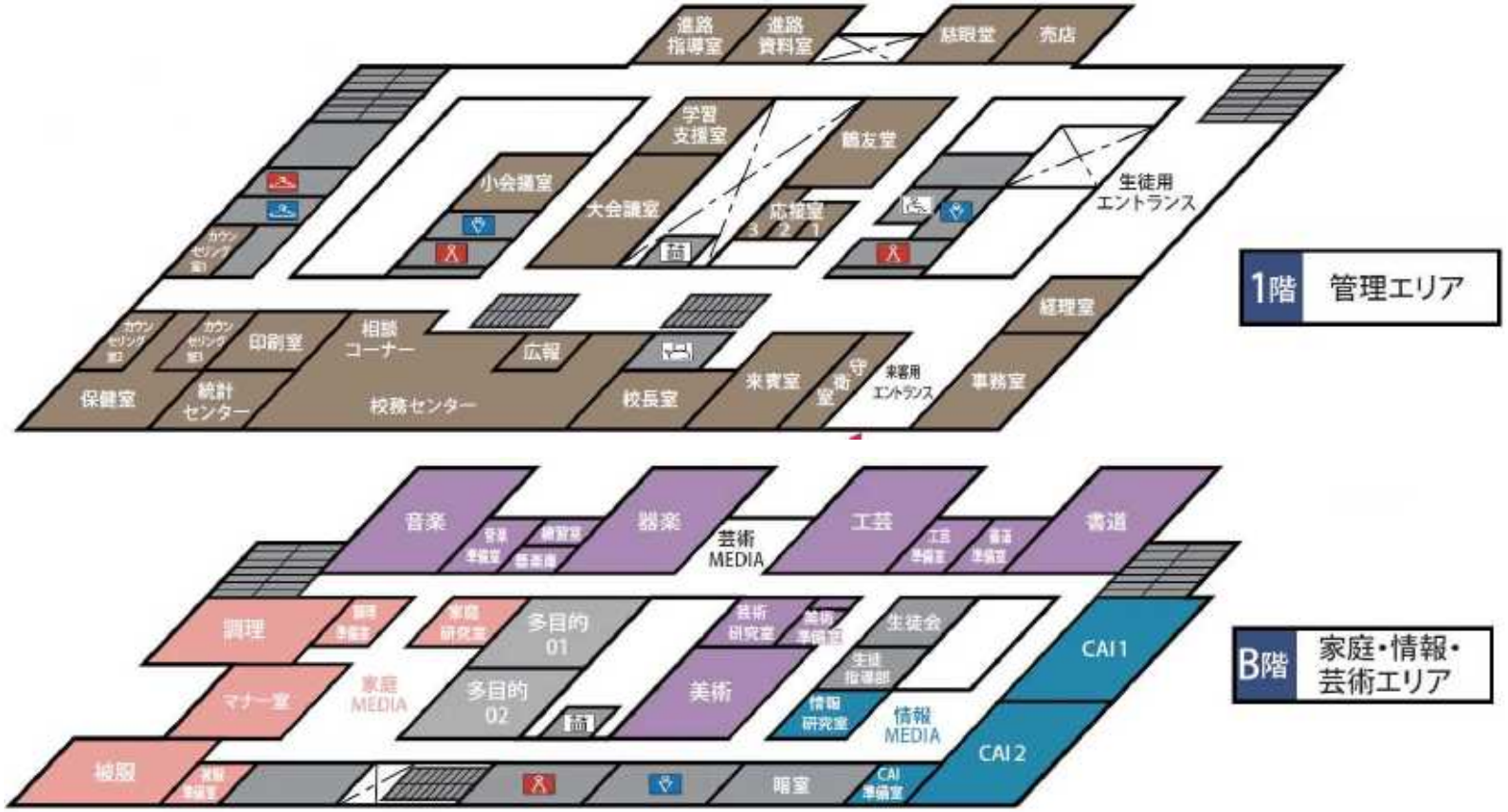
【校地平面図】



【平面図】


4階 英語エリア
英語 01
英語 MEDIA
英語 研究室 1
英語 研究室 2
ラウンジ
多目的 06
英語 02
英語 03
英語 04
英語 05
多目的 04
英語 06
英語 07
英語 08
多目的 05
3階 国語・社会 保健体育エリア
HB
ラウンジ
保健体育 01
社会 01
社会 MEDIA
社会 研究室
国語 研究室
国語 MEDIA
国語 01
国語 02
社会 02
社会 03
社会 04
社会 05
多目的 03
国語 06
国語 05
国語 04
国語 03
2階 数学・理科エリア
生物
生物・化学 準備室
理科 MEDIA
理科 研究室
数学 研究室
数学 MEDIA
数学 01
数学 02
化学
物理
中学理科 物理 準備室
中学理科
理科 01
数学 05
数学 04
数学 03

【平面図】



【特色】

・学力向上、人間形成、国際教育を3つの柱とし、教科教室・ホームベース型の施設で教育を行う。

「教科エリア型校舎」により、生徒たちは授業ごとに教室を移動することで、自ら「学びに行く」意識を生み、モチベーションの向上を期待する。また、教科エリアにはそれぞれメディアスペースとして、教科に関する展示や資料が整備されている。加えて、教科ごとの教員室もあり、生徒は各教科ごとの深い学びを行いやすい環境を整備している。

【施設の状況】
（校舎）

・生徒が自ら学びに向かう態度の育成を目指して、「教科エリア型」の教室配置により施設の整備がなされている。
・生徒の円滑な教室移動に資するよう、教科を示す文字や教科ごとに色を変えるなどサインの工夫がなされている。
・教室不足など、必要に応じて多目的教室が活用されている。
・動線が偏らないよう、三面に階段が設置されている。
・段差のある敷地をうまく利用し、地下にも日光が取れるような間取りになっている。
・図書館の規模は大きいが、教科室とホームベースとは別棟。
・校内にエレベーターと多機能トイレはあるが、生徒の移動教室が多いことから、実際に配慮が必要な生徒が通う場合に数と配置は課題。
・大学附属中高であり、大学の施設（グラウンド、図書館）の利用や、大学での体験学習など、大学との連携も行われている。

理科教室エリア（緑色）

英語教室エリア（橙色）

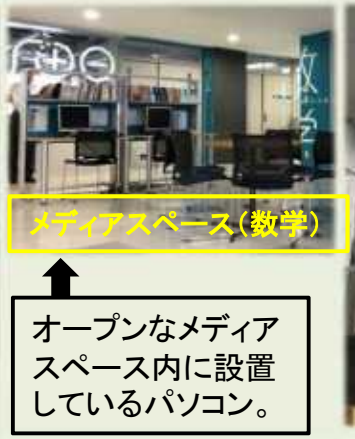
吹き抜けと階段（左：教科教室エリア、右：ホームベースエリア）

エリアごとの色に合わせて、階段室の壁面もわかりやすく色塗りをしている。

図書室

【施設の状況】
（校舎）

・各教科エリアのメディアスペースにおいて、自由に閲覧ができる展示物や書籍、パソコン等が整備されており、生徒に興味・関心を持たせる工夫がなされている。
・教科内の連携が図られるよう、各教科のエリアに全学年の教員が入る研究室を設置。
・生徒は移動短縮を考え、複数授業分の教材が入った荷物を持ち、教科教室では椅子の下等に置く。
・全ての教室において、電子黒板機能付き短焦点プロジェクター及びWifiが整備。
・教員には1台ずつタブレットが用意され、授業での活用の他、職員会議等でペーパーレスの取り組みが進められており、校務室の狭さを取組でカバーしている。
・生徒は個人のID・パスワードを所有しており、1人1人が自分用のIDを活用して端末にログインできる。（端末は校内に70台）
・入学人数が年により異なり、ホームベースにおいて、同フロアに異なる学年が入り込む特徴により、異学年交流が生まれている。
・ 教科教室型として、学級活動が希薄にならないよう、ホームベースに生徒全員が座れる机・椅子を用意し、カバン等の収納用ロッカーも備えている。クラス全員で昼食がとれるほどのスペースがある。



▲校舎側面

▲左棟：教科教室・ホームベース、右棟：ホール・図書室

▲廊下（ホームベース）

▲廊下（ホームベース前にベンチ）

▲ホームベース

▲サイン（左：社会、右：ホームベース）

▲サイン（理科）

▲サイン（国語）

▲サイン（芸術）

▲サイン（ホームベース）

▲サイン（数学）

▲サイン（家庭課室）

▲サイン（トイレ）

▲教科教室（数学）

▲教科教室（英語）

▲メディアセンター（数学）

▲メディアセンター（情報）

▲メディアセンター（家庭）

▲講堂（大ホール）

▲視聴覚室（小ホール）

▲図書室

▲図書室

▲和室

▲職員室

▲トイレ

6.　聖光学院中学校高等学校

全日制課程(高校17クラス):普通科

【所在地】 神奈川県横浜市中区滝之上100

【生徒数】 中学682名　高校684名　計1366名

【出身中学別生徒数】
中高一貫校
（県内:約7割、県外:約3割）

【進路】
進学　188名
就職　0名
その他　43名

【職員数】

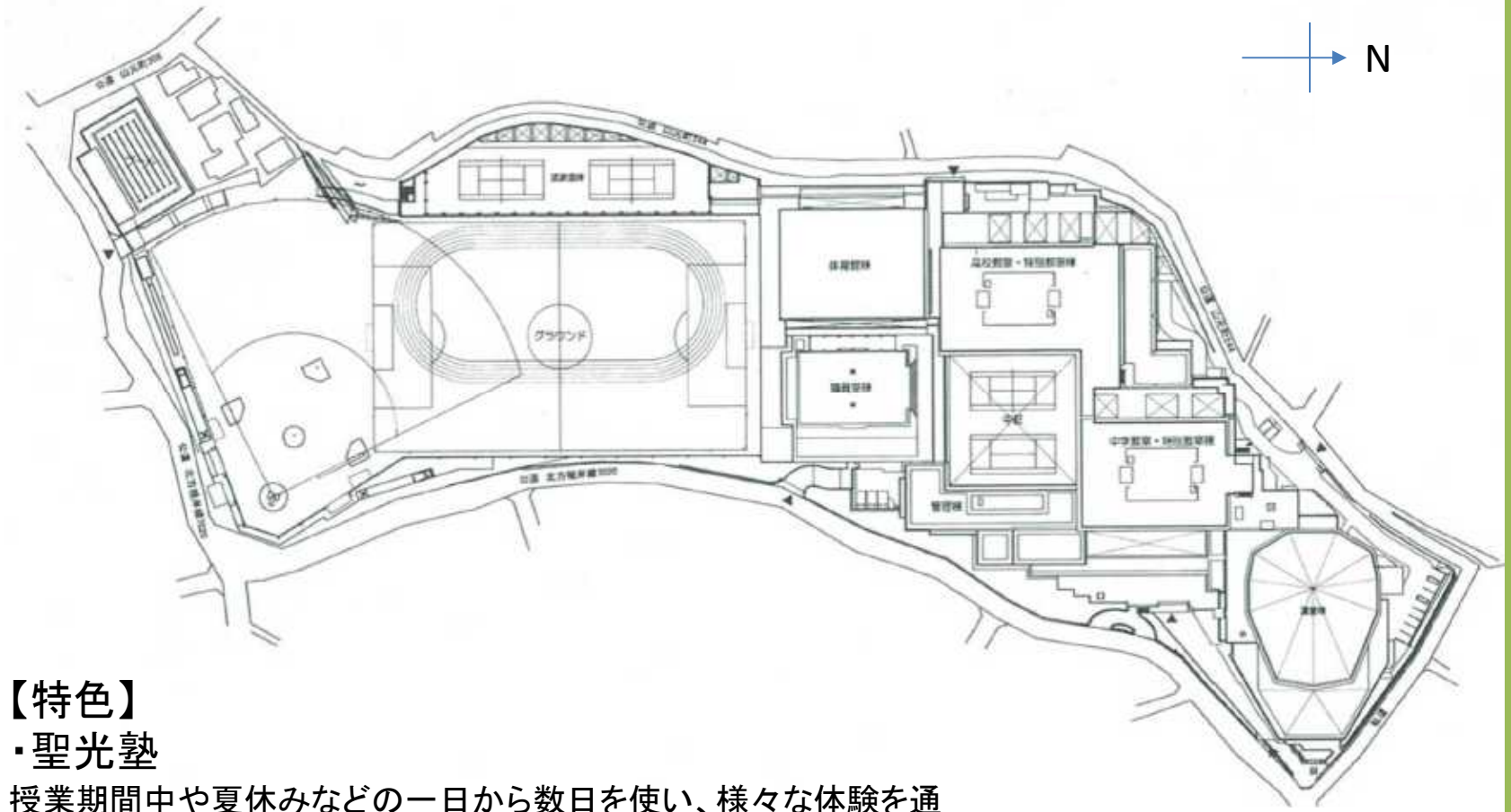
学院長	校長	副校長	教頭	教諭	養護教諭	看護師	講師	事務長	事務職	小計
1	1	1	1	66	1	1	19	1	18	110

校医	歯科医	薬剤師	眼科医	耳鼻科医	精神科医	カウンセラー	小計	合計
2	1	1	1	1	1	1	7	117

※　食堂・警備・購買・清掃については、外部業者に委託

【沿革】
昭和33年に聖光学院中学校が創立、昭和36年に聖光学院高等学校が創立。
新校舎は、平成21年にアドバイザー2名、教員3名、事務職員1名からなる「新校舎建設プロジェクト事務局（翌年、聖光学院新校舎整備計画建築委員会に名称変更）」を発足して検討を進め、平成23年5月から3年半かけて施設を完成させ、平成26年12月に竣工。平成29年文部科学省のSSHの指定を受ける。

【校地平面図】



【特色】

・聖光塾

授業期間中や夏休みなどの一日から数日を使い、様々な体験を通して教養を高める講座を開設。アカデミックな内容や「生きる力」をはぐくむ体験的な学習を実現している。

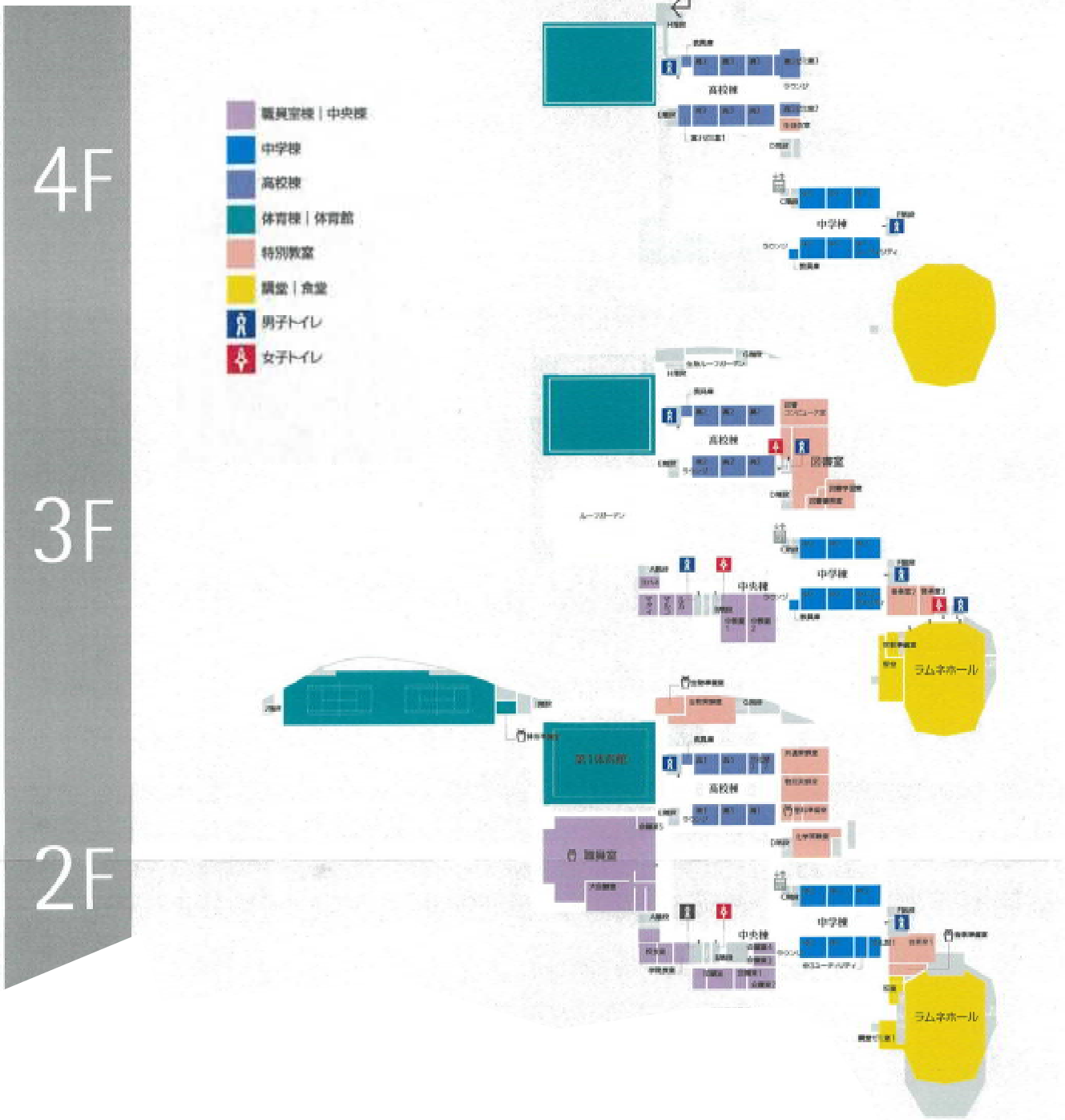
・探究活動

生徒自身で課題を見つけ、文系理系、教科をまたぐ視点から研究を行ってチームまたは個人で問題解決を行うことを目指す（PBL授業）。（高1、2は週1時間）

・国際教育

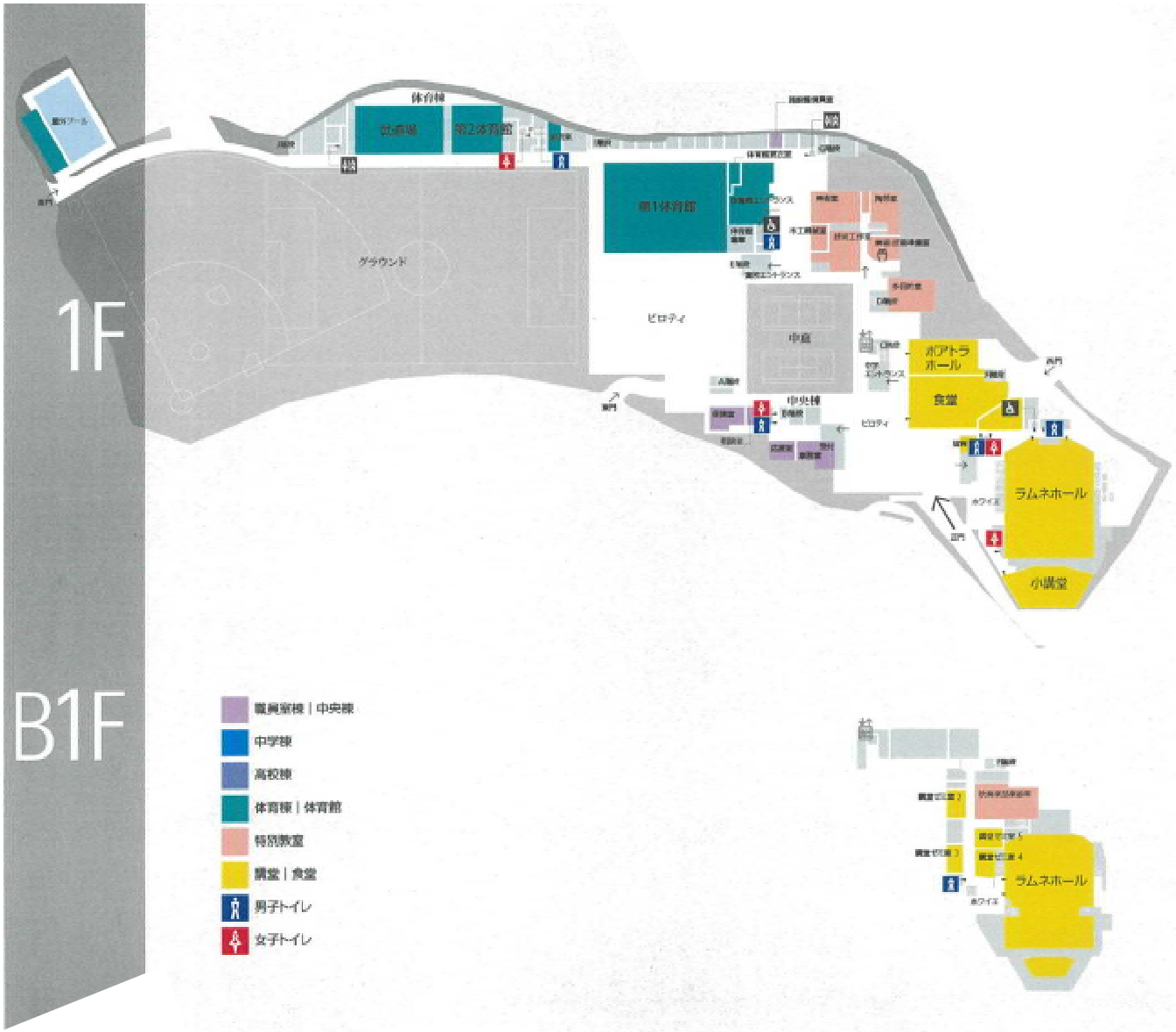
生徒一人ずつが持つ端末を活用したマンツーマン英会話（オンライン・中2、3年）や海外大学の学生を講師として招く研修会を行う。

【平面図】



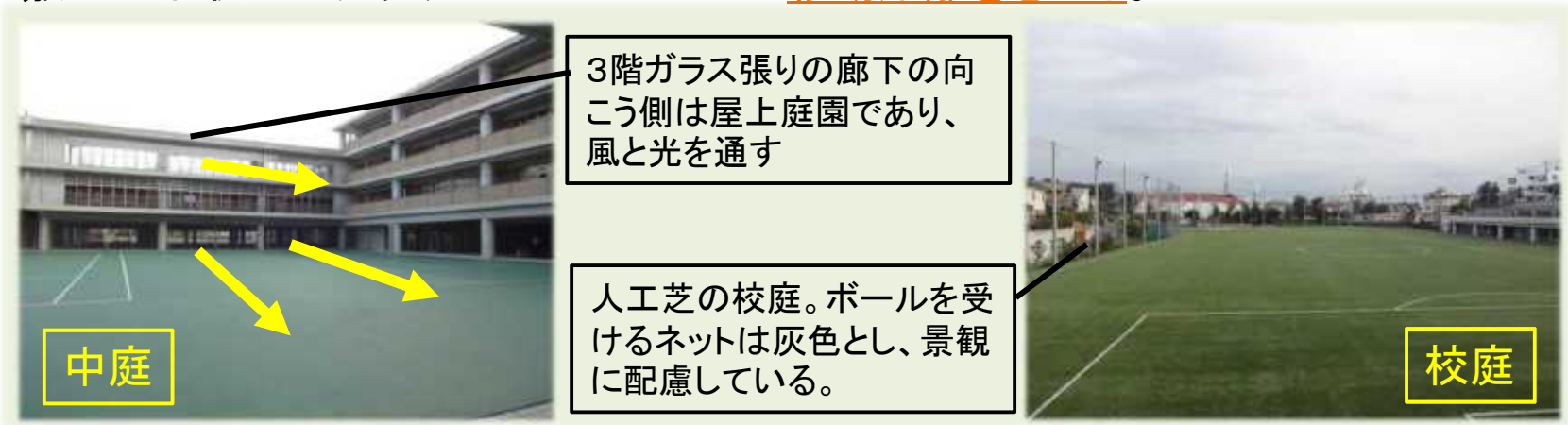
聖光学院中学校高等学校

【平面図】



聖光学院中学校高等学校

【施設の状況】
（設計に当たって）
・新校舎の建設に当たり，発注先と十分な話し合いや交渉ができる専門家を雇い、校内に建築委員会を設置し，学校の職員が施設を使う立場から教室の配置や生徒の動線等を工夫・検討し，それらを設計に反映させている。
（配置・外観・屋外環境について）
・中庭やピロティといった多目的スペースを中央に置いた回廊型の校舎で、複数の動線を確保しながら、スムーズな移動を可能にするとともに、校舎に囲まれた中庭とすることにより遮音性を確保し，学校行事や文化祭等で使用する際の近隣への防音対策になっている。
・卓越風を上手に取り入れた設計で、暑い夏でも風が通るよう、ガラス戸の配置が工夫されている。また、ピロティにも、太陽光が届くよう設計されている。
・大地震の際に，壁が落下しないよう校舎の外壁にはレンガが使用されているとともに，ガラスが落下しないようベランダにテラスが設けられており，安全面の工夫がなされている。
・校庭は人工芝が敷かれており，近隣への砂埃飛散防止の配慮がなされている。
・敷地の形状からグラウンドやプールへの移動距離を感じる。



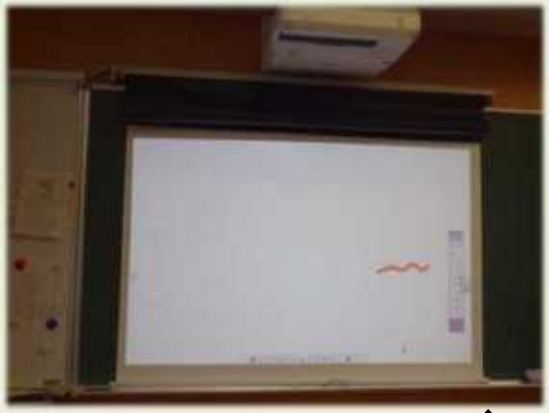
聖光学院中学校高等学校

【施設の状況】
（校舎）

・教室の壁は，工事により撤去及び設置が可能としており，将来，教室配置の変更にも対応ができるなど，柔軟で拡張性の高い設計となっている。
・保護者のみならず、卒業生との交流を意識した施設整備が行われている。
・食堂の運営費を賄うために、保護者や卒業生の懇親会を開催できるスペースを確保している。
・ホールやカフェテリアなど、利用頻度の低いものの外部利用を可能にするため、通常学校教育に利用する部分とは施錠して区切れる設計としている。
・個人アドレスの提供など、卒業した後も学校とのつながりを意識した設備となっている。

【施設の状況】
（校舎）

・授業や諸連絡等に活用される1人1台のタブレット使用のためのWiFi環境に加え，電子黒板機能付き短焦点プロジェクターとスクリーンを設置している。
・効率的・効果的教育を行いやすい多様なサイズの教室を備えている。
・各学年6教室が3つずつ向き合う構造であり、その間の空間に生徒用のロッカーを配することで、クラスの違う生徒との交流が生まれやすい構造になっている。



電子黒板機能付き短焦点プロジェクターとスクリーン

聖光学院中学校高等学校

【施設の状況】
（校舎）
・職員室はゆとりがあり、教員と生徒のコミュニケーションが取りやすくなっている。
・中学・高校の教員が同じ職員室に集まる一方で、教員がグループで集まって会議を行いやすい会議室を複数設置している。また、オープンなもの、クローズドなものなど、教員の仕事内容によって、使い分けができるよう工夫されている。
・職員室には独自の電源が確保されており，災害の際にも業務が継続できるよう対策がなされている。
・会議室や打ち合わせのスペースのほか，教職員用の休憩室も付設されている。

聖光学院中学校高等学校

▲ホール・聖堂玄関

▲エントランス

▲校庭

▲屋上庭園

▲屋内運動場

▲下足入れ

▲教室間に設置された
生徒のロッカー

▲普通教室

▲普通教室に付随するベランダ。普通教室に付随するベランダからは鐘楼が見える。

▲中規模教室

▲生物実験室

▲化学実験室

▲共通実験室

▲実験室のテーブル下の水道

▲印刷室

▲職員室。職員室から校庭を臨む。

▲職員室前廊下。職員室前のベンチ

▲食堂と食堂に隣接したポアトラホール

▲生徒のラウンジ

▲階段室

▲ラ・ムネ・ホール

▲聖堂

▲洋式トイレ

7.　宮城県農業高等学校

全日制課程：農業・園芸科、生活科、食品化学科、農業機械科

【所在地】 宮城県名取市高舘吉田字吉合66番地

【生徒数】 全日制：695（農業・園芸 346　生活　111　食品化学　119　農業機械　119）

【出身中学別生徒数】

＜全日制＞

名取市	169
仙台市	435
その他県内	89
県外	2

【進路】（H31.3.31現在）

＜全日制＞

就職	141
進学	86

【職員数】

＜全日制＞

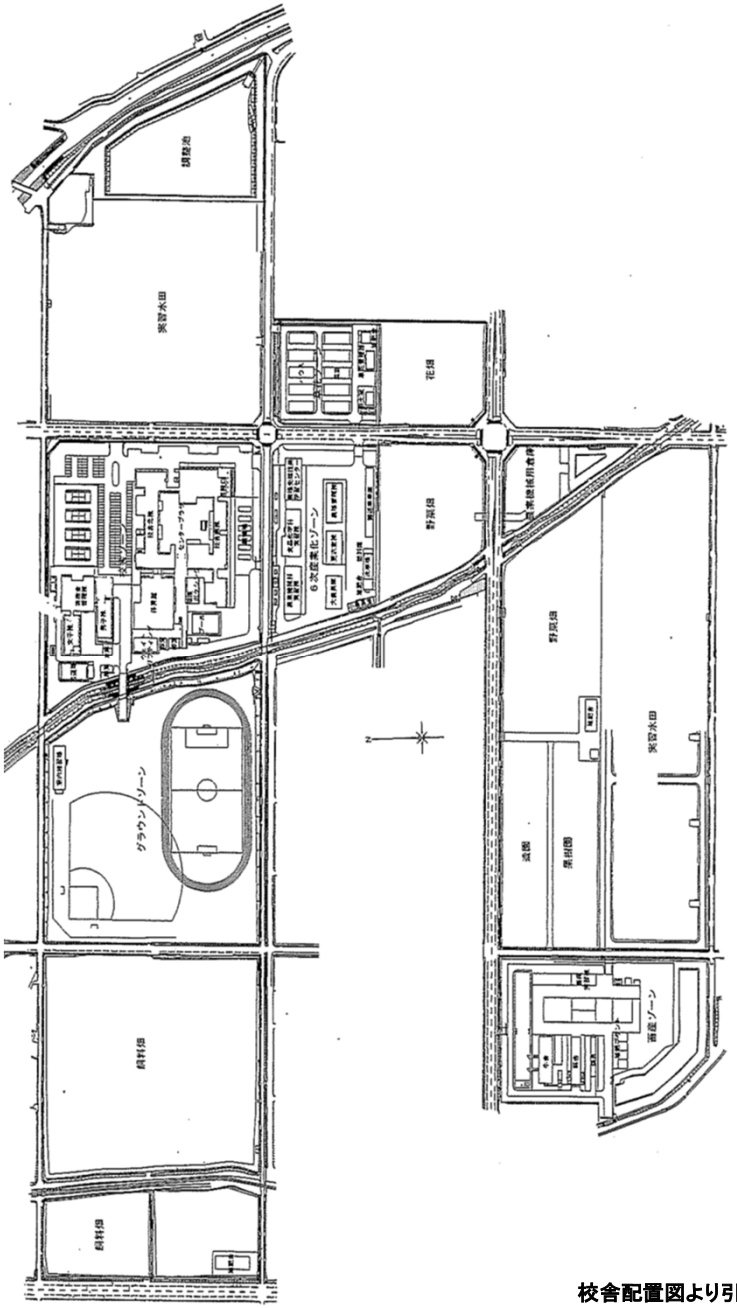
校長	教頭	主幹教諭	教諭	養護教諭	代替養護	講師	非常勤講師	SC、SSW	実習教諭	実習講師	実習助手等	寄宿舎指導員	栄養教諭	栄養技師
1	2	2	46	1	1	4	5	2	2	7	10	2	1	1

事務職員	学校司書	技師（巡視）	技師（庁務）	技師（農場業務）	臨時職員	パート職員	合計
6	1	2	2	2	4	7	111

【沿革】

明治18年に宮城農学校として創立。平成23年3月の東日本大震災により学校が被災し校舎が使用不能となり、5月から3校に分散し学校再開。同年9月に宮城県農業・園芸総合研究所内に仮設校舎完成。平成26年に「スーパープロフェッショナルハイスクール（SPH）」に指定される。平成30年3月新校舎が完成し学校の移転が完了。

【配置図】



校舎配置図より引用

【特色】

・グローカルアグリハイスクール

・グローカル教育で人材を育てる
・地域社会・産業に寄与する
・地域交流の拠点となる
・地域防災を推進する
・地球環境を守り創造する

・SPH事業（H26～H28）

「日本最古の農業高校　震災・津波から復活の取組み！地域で活躍する就農者増加に向けて」を研究テーマとして、就農者増加を目指して事業を実施。

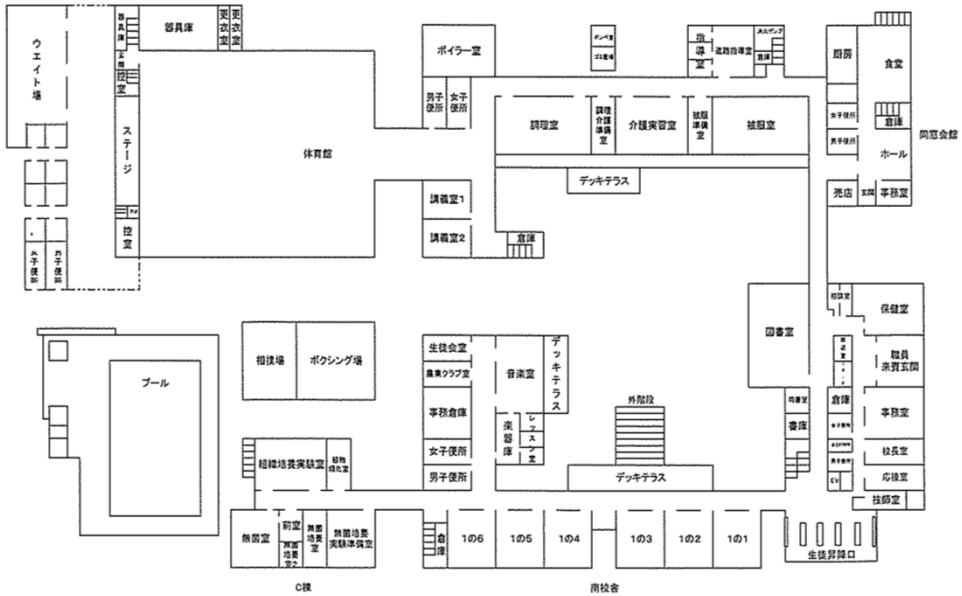
・グローバル化への対応

農業のグローバル化に対応するため、農産物の生産工程管理を行うGAPやHACCAPへの対応が進められている。また、スマート農業に対応した関係機関との連携も積極的に図られている。

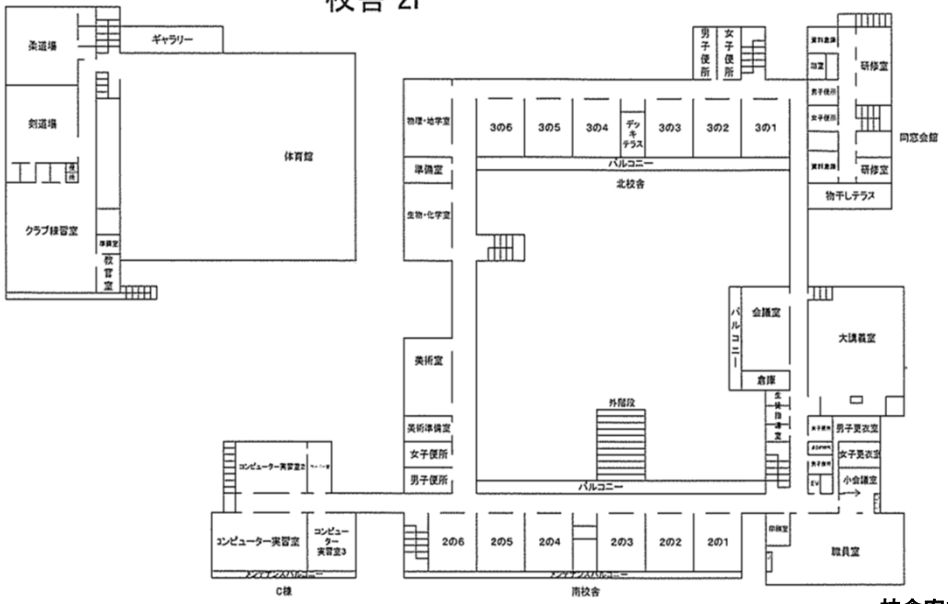
中庭

【平面図】

校舎 1F



校舎 2F



校舎案内図より引用

【施設の状況】
（校舎）

・校舎等は2階建てで整備されており、非常に開放的な環境となっている。囲障も低いフェンスとするなど、施設全体が地域の方々も含め人が集まりやすい公園のような雰囲気で整備されている。

・廊下の天井は木のルーバーで整備されており、配線や配管等のメンテナンスが行いやすいよう工夫されている。

・普通教室と特別教室にプロジェクターが設置されておりWi-Fi環境も整備されている。生徒用のタブレット端末は21台が導入されたばかりであるが、今後の充実が期待される。

・生徒用ロッカーが廊下に確保されているため、各教室の机回りはすっきりしており、ゆとりが感じられた。また、ロッカーや消火栓塔等は廊下の壁の一体として整備されているため、廊下に出っ張った部分はなく、安全性・快適性が確保されている。

・校舎は2階建てであるがエレベーターが設置されており、バリアフリーに対応した整備がなされている。

プロジェクターを活用した授業

エレベーター

廊下の壁と一体で整備された生徒用ロッカー

メンテナンスを考慮した廊下の天井

【施設の状況】
（実習棟等）

・実習棟は、農業のグローバル化に対応するため、農畜産物の生産工程管理においてGAPやHACCAPに対応できるよう専門性の高い施設設備の整備がなされている。

・実習棟には講義を行える教室も配置されており、講義と実習を織り交ぜた授業が行えるよう工夫されてる。

・また、生徒が作った農産物を一般向けに販売するスペースも整備する等、農業の6次産業化について一貫して学べる環境が整備されるとともに、実社会と繋がった主体的・対話的で深い学びを促すよう工夫されている。

・農場も含め広大な敷地に整備されているため、施設設備の日常的な維持管理に係る労力が大きいと感じた。

溶接実習室

機械工作室

2階に講義室が配置されている。

内燃機関実習室

生産工程の管理なされた農産加工室

6次産業化学習スペース

宮城県農業高等学校

【施設の状況】
（寄宿舎）

・寄宿舎は、通年入寮の生徒のほか、学科ごとに一定期間の義務入寮を実施し、全ての生徒が寮生活を体験できるよう工夫されている。

・寄宿舎は、個人のスペースと共有スペースを明確にされており、プライバシーの確保と寮生同士のコミュニケーションを両立させる配置計画となっている。

・整備前は男子生徒の方が多かったため寮の定員を男子64名、女子56名としたが、整備後は女子生徒の入学生が増加傾向にあり女子寮が不足気味になっている。

寄宿舎外観

食堂

寮生全員が集まれるホール

寮生の部屋（4人部屋）

風呂場

個室のシャワーブース

宮城県農業高等学校

▲普通教室

▲普通教室の扉

▲ 農業先端技術学習センター

▲農業実習ビニールハウス

▲溶接実習室

▲内熱機関実習室

▲介護実習室

▲機械工作室

▲農産加工室

▲無菌培養室

▲無菌室

▲職員室

▲職員室（休憩スペース）

▲食堂

▲体育館

▲大講義室

▲調理室

▲中庭

▲昇降口

▲壁に埋め込まれたロッカー

▲廊下

▲寄宿舎

▲寄宿舎集会室

▲寄宿舎食堂

▲寄宿舎部屋

▲寄宿舎シャワールーム

▲寄宿舎風呂

8.　宮城県迫桜高等学校

全日制課程　総合学科（6系列）：人文国際、自然科学、福祉教養、情報科学、エンジニアリング、アグリビジネス

【所在地】 宮城県栗原市若柳字川南戸ノ西184番地

【生徒数】 全日制：533（1年　160　2年　180　3年　193）

【出身中学別生徒数】

＜全日制＞

栗原市	327
その他県内	173
県外	33

【進路】（H31.3.29現在）

＜全日制＞

就職	81
進学	94
その他	7

【職員数】

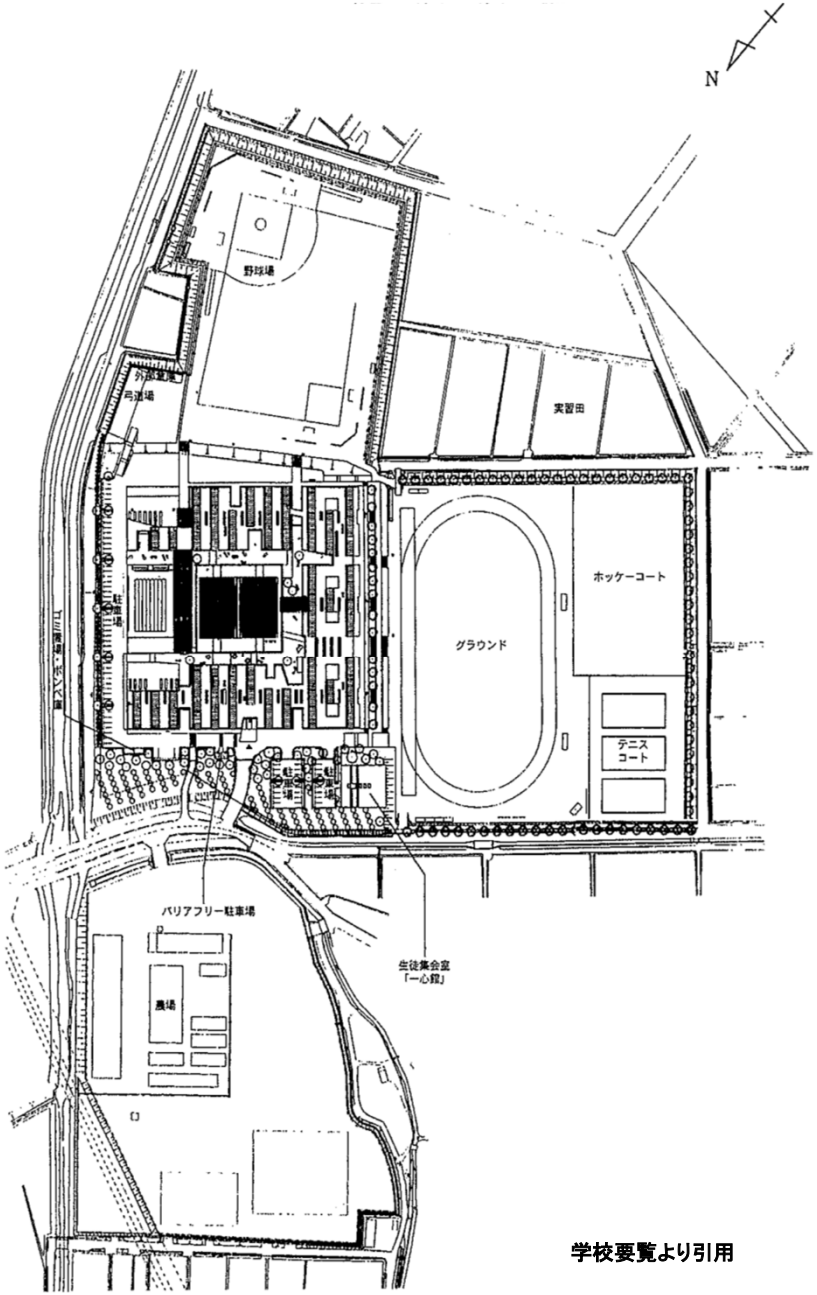
＜全日制＞

校長	教頭	主幹教諭	教諭	講師	養護教諭	実習助手	事務職員	学校司書	技師	非常勤講師	英語助手	計
1	1	1	43	2	2	5	5	1	3	11	1	76

【沿革】

宮城県栗原農業高等学校と宮城県若柳高等学校を統合し、平成13年に総合学科の宮城県迫桜高等学校として開校。高校の開校に合わせ校舎等を整備。

【配置図】



学校要覧より引用

【特色】

・単位制、総合学科の教育課程に基づく特色ある学校づくり

一人一人の進路に応じた科目選択が可能であり、科目選択の目安として6系列（人文国際、自然科学、福祉教養、情報科学、エンジニアリング、アグリビジネス）を設定し、個々の学生ニーズに合わせて教育を展開。系列を超えた科目選択も可能としている。

自ら科目を選択することで、主体的に学習に取り組む環境を整備。

・総合学科に合わせた特色ある施設

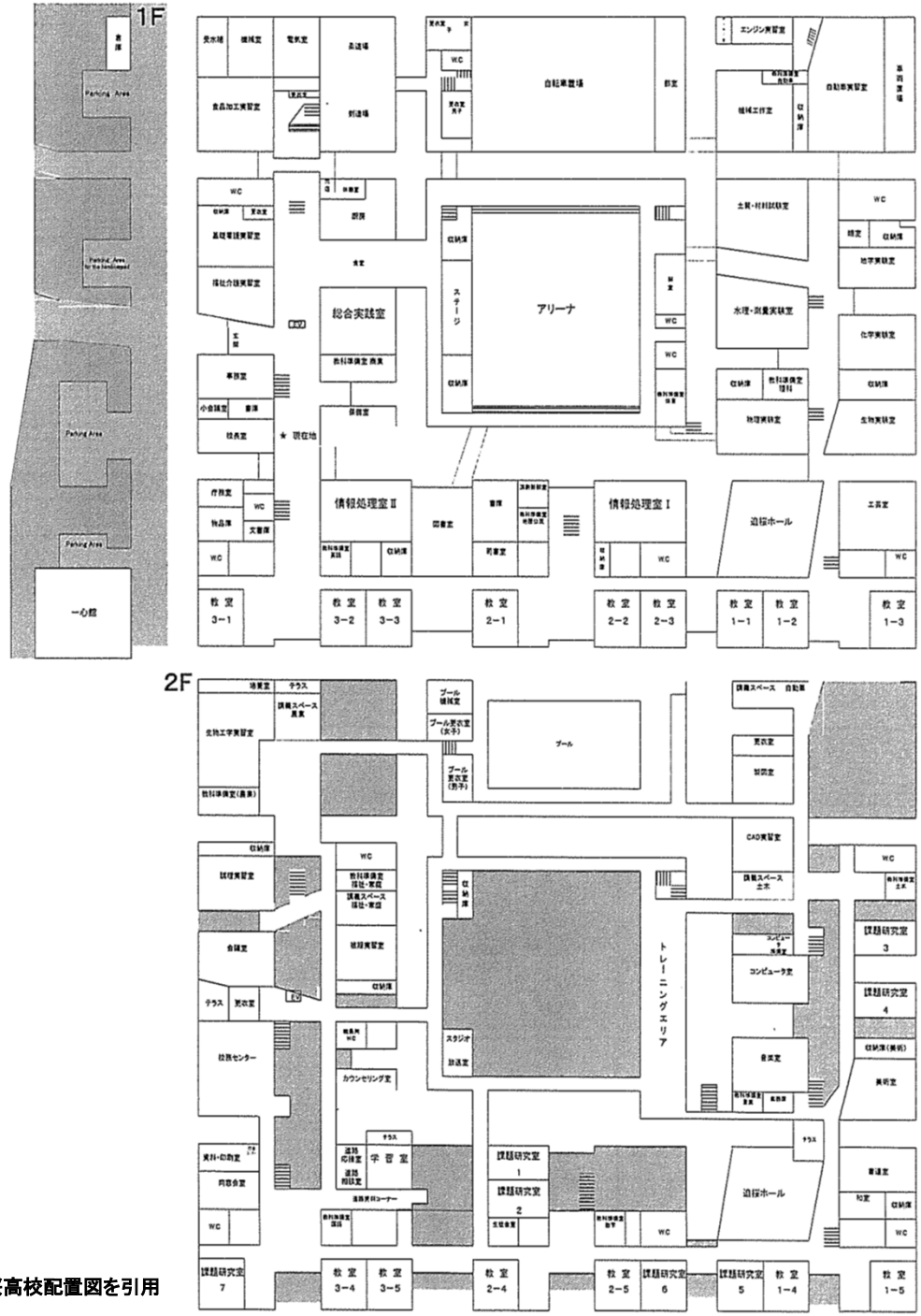
異なる系列の生徒たちが相互に刺激を与えることができるよう大きな一棟の建物として整備。生徒の移動の負担軽減のためロッカーの設置やフレキシブルラーニングエリアを確保。開設科目に柔軟に対応できるよう課題研究室等を整備。

・開かれた学校づくり

学校、家庭、地域社会が一体となって生徒を育てるため、開放講座等における社会人講師の活用や学校図書館や食堂の地域開放等を実施。

外観（教室側）

【平面図】



迫桜高校配置図を引用

【施設の状況】
（校舎）

・普通教室や特別教室等は、用途に応じてゾーンで配置されている。
・総合学科である特色を生かし、生徒が自由に動き回ることができる回遊性が確保されるとともに，多目的かつフレキシブルに利用できるよう設計の工夫がなされている。
・これまでの校舎の概念にとらわれない斬新なデザインとなっている。
・生徒も校舎に愛着を感じており、学校生活の中心に校舎があるような雰囲気となっている。
・系列ごとの実習施設には、講義スペースと実習スペースが整備されており、課題研究に取り組みやすい学習環境となっている。また、他の系列の雰囲気がわかるよう工夫された空間配置となっている。

回遊性のある廊下

講義スペースと隣接した
福祉介護実習室

講義スペースと隣接した
生物工学実習室

宮城県迫桜高等学校

【施設の状況】
（校舎）

- 総合学科では選択授業が多く、生徒は教室移動が多くなるが、居場所づくりのため、校舎内の各所に「フレキシブル・ラーニング・エリア」が整備され、デザイン性の高い机・椅子，ベンチが設置されている。
- このエリアは、単なる居場所づくりだけでなく、生徒同士、あるいは、生徒と教員のコミュニケーションの場となり、生徒の主体的・対話的で深い学びを促すために非常に有効である。
- 壁面にガラスが多用されており，自然光を十分に取り入れることができ，明るい雰囲気となっているが、清掃等の維持管理や断熱性には課題があると感じた。
- 整備当初は普通教室で移動式黒板を活用していたが、その後、新たに黒板を設置しレイアウトを変更しており当初のコンセプトがうまく機能しなかった部分もあると感じた。
- コンクリート打放しの壁やFRPの外壁、屋内外の固定家具、ウッドデッキ等、デザインは未来的であったが、経年劣化が進んでいる部分もあり、維持管理に難しさが感じられる。

フレキシブル・ラーニング・エリア

中庭に配置されたベンチ

ガラスが多用され自然採光が十分取り入れられた教室

自然採光だけでも十分明るい体育館

宮城県迫桜高等学校

【施設の状況】
（校舎）

・平成30年度に普通教室にプロジェクターが設置されWi-Fi環境も整備されている。生徒用のタブレット端末は45台導入されており、今後の更なる充実が期待される。
・生徒指導室とは別にカウンセリング室が整備されており、特別な配慮を要する生徒への対応も可能となっている。
・廊下にロッカーが整備されており、生徒の移動に関する負担軽減への配慮がなされている。また、普通教室に個人の荷物を置かないため、柔軟に教室の活用が可能となっている。
・2階建ての校舎であるが、エレベーターが設置されておりバリアフリーに対応した整備がなされている。

プロジェクターの活用状況

落ち着いた雰囲気のカウンセリングルーム

廊下に整備されたロッカーとベンチ

▲普通教室（壁はガラス張り）

▲ロッカースペース

▲ 図書室

▲図書室（外から）

▲機械実習室

▲機械工作室

▲生物工学実習室

▲校務センター（職員室）

▲食堂

▲廊下に設置されたベンチ

▲ウッドデッキテラス

▲フレキシブルラーニングエリア

▲アリーナ

▲アリーナ入口

▲階段

▲階段・中廊下

▲廊下

▲中庭

▲迫桜ホール